

# 校長会報

## 島前での三年間を振り返って



島根県教育庁教育指導課長

常松 徹

平成29年度 第2号  
発行所  
島根県小学校長会  
事務局  
松江市母衣町 55  
県教育会館内  
TEL (0852)27-8530  
FAX (0852)67-3360

私はこの三月まで隠岐島前高校の校長を三年間務めさせて頂いていただきました。その間、しんどいことも多々ありましたが、それ以上に充実した三年間でもありました。その話を少しさせて頂いていただきます。

平成二十六年四月、島前高に赴任すると一週間も経たないうちにNHKのテレビ取材(ニュースウオッチ9)があり、島前高への世間の関心の高さを改めて感じ、またそれは大きなプレッシャーでもありました。その一方、時

が経つとともにいくつかの問題点も感じ始めていました。その一つが、新しいことにチャレンジしなくなっている、言い方を換えれば、今までやってきたことを大事にしすぎているという感じでした。確かにそれまでの魅力化の取組は一定の成果をあげており、そう

いう気持ちもわからないではありませんでした。しかし、年度の半ばには、魅力化プロジェクトの推進役であった岩本悠さんが次年度より県教委に異動することが内々に分かっていました。で、このままではいざ行き詰まってしまうのではないかとという不安感がありました。ちょうどこの頃、文部科学省のスーパーグローバルハイスクール(SGH)の事業に応募しないかという提案を周囲からいただいていた。それまでの島前高は、「グローバル人財の育成」を目標に掲げながら、その取組の多くは「ローカル」部分に偏っていましたので、SGH事業に取り組むことで真に「グローバル」な取組に変わっていきけるのではないかと、そして島前高校魅力化プロジェクトもさらに飛躍できるのではないかと考えま

した。また、難しいと思えることに学校全体でチャレンジすることで、先ほど述べた閉塞感のようなものも打破できるのでは、という期待もありました。しかし、島前高のような小さな学校がSGH事業に手を付けることは無謀と思われても仕方ないですし、また申請のための業務で教職員に更なる負担をかけることにもなります。何とか、今以上の負担をかけずに申請することが出来ないものかと考えていた時、機会があつて岩本さんの後任として来島を考えていた大野佳祐さんと面接をしました。すると彼は前職の大学職員の時にSGU(SGHの大学版)事業の担当をされていたと聞き、「彼だ!」と閃きました。彼が新しいコーディネーターとして来てくれるれば、SGH事業を大きく前に進めることができると確信しました。幸いにも、大野さんは岩本さんとの引き継ぎもかねて十二月から勤務を始め、SGHの申請業務に携わり、翌年の三月末、無事にSGH校の指定を受けることが出来ました。

年度が改まった四月の始業式、私はその年のスローガンとして「Challenge and Go ahead」を生徒に示し、失敗を恐れず、いろいろなことに果敢にチャレンジすることを求めました。この年には、SGH校となったことをきっかけにブータンやロシアのウラジオストツクとの交流が生まれ、留学生を招いたり、生徒を派遣したりすることが出来ました。また、マレーシアから一年間の留学生の受け入れも出来ました。以前はこうした活動に積極的なのは多くは島外から来た生徒でしたが、

島内生の中にも大きな刺激を受けた生徒も現れ、生徒会長に立候補する生徒も出てきました(ちなみにこの時の生徒会長選は五人が立候補するという盛況ぶりでした)。私はこうした生徒の変容を見るたびに、SGHにチャレンジしてよかったと思うと同時に、運の良さ、人との出会いや縁の大切さを感じずにはいられませんでした。

島前高での三年間で「これだけはやり遂げた」といえるものはないですが、ただ一つ、「責任をとることからは絶対に逃げない」という気持ちは持ち続けられたのではないかと思っています。その思いは教職員にも通じていたのか、島前高の教職員は、それぞれにチャレンジングな取組をしていたと思います。そして、この三年間の唯一の自慢といえ、全校生徒の顔と名前をすべて覚えたことでしょうか。わずかに百八十人余りではありますが。

長々ととりとめの話をしてしまいました。

校長先生方におかれましては、次期学習指導要領への対応、とりわけ英語及び道徳の教科化、カリキュラム・マネジメントの実現、そして「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善への取組等々、忙しい毎日を送っておられることと思います。県教育委員会としても全面的に学校現場を支援していきたいと考えています。

季節の変わり目で体調を崩しやすい時期です。どうかご自愛いただき、島根の子どもたちの健やかな成長のために引き続きご尽力いただきますよう、よろしく願います。

飯石支部

学ぶ意欲と自ら学ぶ力の育成  
のためのICT機器を活用し  
た「わたり指導」

校長 藤原幹夫  
(飯南町立志々小学校)

○はじめに

本校は、今年度児童数十七名の完全複式の学校である。一・二年の在籍はなく、三・四年、五・六年の複式学級と、知的特別支援学級の三学級で編成している。

飯南町はICT機器を活用した教育に力をいれており、各教室に電子黒板、デジタル教科書(国・社・算・理・書写)、書画カメラがある。さらに、クラスの児童数分のタブレット、教育支援ソフト、各教室・体育館にWiFi環境を整備していただいている。

○「わたり指導」の実際

本校は、三・四年、五・六年ともに「算数科」(担任の指導)「書写」(教頭の指導)において、「わたり指導」を行っている。

本稿執筆にあたり、「わたり指導」について児童の思いを聞いてみた。リーダーはめあてを決めたり、予習をしたりするのは大変だけど、自分たちで考え、進める力、集中力が付く。



「わたり指導」でデジタル教科書を使った学習の様子(3・4年算数科)

- ・みんなで協力して、自分たちのペースで勉強できる。
- ・自分たちの意見がしっかり言える。
- ・わかりやすく教えてもらおうととがあり、算数が好きになる。
- ・また、デジタル教科書等については、
- ・先生がおられなくても、問題の意味や答えの説明が分かりやすい。
- ・説明する時も、書画カメラを使うと大きくて見やすい。
- ・など、肯定的なものが多かった。

○おわりに

「わたり指導」は、ここ四十年間、本校に脈々と培われてきた担任と児童、児童同士の関わりの中での学びである。さらに、ICT機器の使用は児童の思いからもわかるように「学ぶ意欲と自ら学ぶ力の育成」に有効なツールであると確信できた。今後、時期学習指導要領の全面実施に向け、「わたり指導」におけるICT機器の有効な活用の取組をさらに進めたいと考えている。

シリーズ  
特集

“複式教育の現状”  
～わたり指導の実際～

浜田支部

子ども同士の学び合い

「わたり授業の中で」

玉木敦子  
(浜田市立今福小学校)



本校は、平成十八年四月、小規模校三校が統合し、新今福小学校として開校した。一時は児童数も増えたが、毎年複式学級を一ないし二学級有する。今年度は五年生(六名)、六年生(六名)が複式学級である。算数科のみ、わたり指導を行い、他教科・領域はA・B年度方式のカリキュラムで行っている。実際の教室では、五年生が黒板側、六年生が移動式黒板を持ち込み、窓側を向いて学習を進めている。どちらの学年も三年生で初めて複式学級を経験しており、わたりの授業の中で必然的に、子ども同士が学び合う場面が生まれている。中学年の頃は、リーダーを決めてガイドブックをもとに進行役を務めさせた。その経験を積み重ねた上で、高学年になると、リーダー役を決めずに子どもたち同士が関わりながら発言して、話し合いを進めることができる

ようになってきた。

複式学級のよい点を挙げてみる。まず、上学年の子どもたちが、学習面はもちろん生活面でも下学年の見本となる言動を示すことである。下学年の子どもたちは、上学年から教えられたり行動を見ていたりすることにより学んでいく。そして、次に自分たちが上学年になった時に、教えてもらったことを下学年に伝える姿が見られる。異学年でありながら、子どもたち同士の見本となる言動が育つ場面が見られる。

次に、わたりの授業の間接指導の場面では、必然的に子どもたち同士が学び合うこととなる。学習に対する意欲や能力に個人差が見られるものの、子どもたちは、励まされたりそっと見守ったり、または「やるよ!」と強く誘ったりしながら学習を自分たちで進めることができる。子ども同士の力である。学び合う習慣や態度が育ってきている。

今後私たちは、複式学級のよさを生かした子どもたちが学び合う授業づくりを目指して、日々努力していきたい。

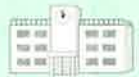




### 学校紹介

## 恵まれた自然環境を活かし、地域の方と交流するふるさと学習の展開

多田 房明 (天田市立鳥井小学校)



春になると校舎内に潮の香りが漂い、波の打ち寄せる音が聞こえる。鳥井小学校は、美しい日本海に面した、児童数四十五名の小規模複式校だ。

抜群の自然環境を活かし、学校教育に協力的な地域の皆様に支えられ、少人数で体験活動を取り入れやすいといった利点を活かし、「海に関する学習活動」を展開している。日本海の潮水を使った塩作り(生活科)、ヒラメの稚魚放流体験を活かした栽培漁業学習(社会科)、海岸の地層調べ(理科)、漁港のスケッチ(図工)、年四回行う浜マラソン(体育)、サマーキャンプ(学校行事)などの授業だ。

毎年七月に入ると、浜掃除を行う。近年、外国からの漂着物が目立つ砂浜海岸を、汗まみれになりながらゴミを集めていく。小学生だけでなく地域の方が大勢参加されることもあり、砂浜は見違えるほどきれいになっていく。数日後、学校に泊まり込み、サマーキャンプを行う。子どもたちが楽しみにしているのは、きれいになった砂浜で行う海水浴とスイカ割りだ。夜には保存会の方に教えていただいた盆踊りを披

露し、キャンドルサービスを行う。子どもたちの創意あふれる出し物を楽しみに、本校を卒業した中学生や地域の方が来校され、サマーキャンプは地域の一大イベントになっている。

海に面した本校では、安心・安全な学習環境づくりにも努力している。万一の津波被害に備え、地域の方と職員が協力し、隣接する高台にある佐比売山神社への避難路を、一昨年設置した。

昨年の鳥井つ子フェスタでは、六年生が「町の幸福論」という発表を行った。鳥井の町を活性化する方法として美しい海岸線を活かす提案が行われ、「海に関する学習活動」を通して、自分達の住んでいる地域を大切にすることが育つていくことを強く感じた。

こういったふるさと学習を、これからも大切にしていくと考えている。



### 学校紹介

## 地域に支えられる高津つ子精神

大橋 大 (益田市立高津小学校)



「東の野にかぎろひの 立つ見えて かいり見すれば 月かたぶきぬ」

万葉歌人で有名な柿本人麿。人麿終焉の地として祀られている高津柿本神社がある益田市高津町。そして、「清流日本一」として有名な高津川の河口に位置するのが高津小学校です。

更に、東西十キロもの長い海岸が続く「持石海岸」や「県立万葉公園」も校区内にあり、地域住民の憩いの場となっています。自然豊かで文化の薫るこの高津地区に、最近では、大型店舗も増えて商業地域としても盛んになっています。

現在、児童数四百二十七名、赴任して四ヶ月、地域の方に育てられていることを強く感じています。

朝は、校門、通学路の各交差点、横断歩道、危険な箇所、児童の集合場所等に多くの見守り隊の方だけでなく、地域の方がたくさん出て声をかけて子どもたちを元気づけていただいています。

また、老人会四十名の方が年度初めと終わりに、広い校舎の窓ふきやトイレ掃除をしてくださり、子どもたちが気持ちのよい環境で過ごせるようにと汗を流していただいています。更には、

各種野菜等の栽培、花植え、毎週の全学年の読み語り等の学習の協力。クリスマスにはサンタに扮してプレゼント配りをして、子どもたちを喜ばせていただいています。

地域の方に学ぶ活動として戦争体験者の方や地域で活躍されている方等を招いての学習や交流活動。また、地域に出向いての活動として、福祉施設、商業施設や農家等を訪問しての調べ学習や体験活動。そして、高津川や万葉公園等自然を媒介とした生き物学習や環境学習等にも取り組んでいます。そして、学年の終わりに感謝会を開いたり、卒業時には万葉公園等のクリーン作戦を展開したりして地域への恩返しをしています。

この春より、高津小スローガン、「先手必勝の明るい挨拶」を掲げて実践しており、秋には児童・保護者・地域で「千人の挨拶運動」の展開の計画をしています。挨拶を通して、益々

地域と一体となった学校教育を進めていきます。



# 事務局だより

事務局長 金山美幸

(松江市立城北小学校)

## 中国地区小学校長会 第一回理事会並びに連絡協議会等について(報告)

七月二十八日(金)、岡山市において開催され、本会からは橋本会長はじめ六名が参加しました。主な点について報告します。

### 一 第六十四回 中国地区小学校長教育研究大会岡山大会について

平成二十九年十一月二日開催

#### (一)鳥根県の発表分科会

- ・「組織・運営」 安来市
- ・「リーダー育成」 飯石郡

#### (二)流れ等について

- ・ 一日開催とし、理事会・理事懇親会は前日に開催する。
- ・ 全体会(岡山市市民会館)は、分科会ごとの座席とする。
- ・ 全体会の最後に「次期開催県挨拶(鳥根県)」を行う。
- ・ 全体会終了後は、分科会ごとに移動・昼食とする。

### 二 第六十五回 中国地区小学校長教育研究大会鳥根大会(出雲)について

平成三十年十一月九日開催

#### (一)提案事項

以下の事項等について、出雲市校長会に作成していただいた実施計画案を説明し、了承を得た。

- ・ 宿泊については開催時期を考慮し、業者委託に変更した。
- ・ 各県の分科会提案者と司会者報告については、第二回理事会で依頼する。

#### (二)留意事項(大会名について)

本理事会に先立ち、本会の「会則に係る研究会」が開催され、大会名についても話題に上がった。今後の協議により大会名を変更する可能性もある。

### 三 第六十六回 中国地区小学校長教育研究大会鳥取大会について

平成三十一年十一月八日開催

#### (一)提案事項

- ・ 一日開催とし、理事会は前日に開催する。
- ・ 宿泊については各自で予約する。

#### 四 情報交換

(一)外国語活動及び外国語科の移行措置の実施に向けた課題とその対応

状況

#### (一)「働き方改革」を推進するための具体的取組、又は効果のある取組

### 五 今後の中国地区小学校長会における教育研究大会鳥根県担当

(一)平成三十四年度 全国大会

(中国大会を兼ねる)

※全国大会は、二千人規模の大きな研究大会になります。数年前から準備を始めることとなりますので

ご協力をよろしくお願いたします。

(二)平成四十一年度中国大会

#### 県教育委員会との意見交換会(報告)

八月二十一日～二十二日、第三回理事会を開催しました。一日目の午後は県教委との意見交換会を行い、(一)「外国語活動の現状について」、(二)「特別支援教育の現状について」の二つの話題で県教委の皆さんと意見交換をしました。

(一)については、荒金修常任理事(安来・鳥田小)から、安来市の状況を踏まえながら、中学校との連携を進めている様子や、全教員で授業をしながら取組を進めている状況等について情報提供をしていただきました。各理事からは、外部人材の活用や評価のあり方、複式における課題等、様々な意見が出

されました。

(二)については、中田敦常任理事(鹿足・六日市小)から、県や町の事業を活用しながら校内の支援を充実させたり、業務分担や各種会議のあり方を工夫したりする中で、支援の効果を高めている取組等について情報提供していただきました。各理事からは、特別支援教育支援専任教員の活用に係る感想や意見等が出されました。

県教委からも、その都度情報提供や施策についての説明をいただく中で、各理事からの話題も途切れることなく提供されていき、大変有意義な時間となりました。

### 編集後記

さわやかな秋風を感じるようになりました。様々な行事のある二学期、活動を通して子どもたちが大きく育つ時でもあります。

また、新学習指導要領実施に向けて準備が進められていることと思います。二号のシリーズ特集を、今年度より「複式教育の現状」わたり指導の実際」としました。いかがだったでしょうか。

お忙しい中、ご寄稿いただきました関係の皆様にご心からお礼申し上げます。

(角)